

## 月浦森林公園物語

札幌市 吉中 弘介

筆者は、関係している植物観察会で何度か洞爺湖西岸にある月浦森林公園に行き植物観察を行ってきた。ここには多様な環境があって植物の種類も多く優れた観察地の一つである。この公園内の一角に場違いな感じで和風の一軒家が建っている。不審に思い近づいてみると、入口の上に「お屋敷跡休憩所」と書かれた表札があり、建物の脇にこれを説明する立て看板があった。看板には次のように記されている。

### 加藤泰秋子爵別邸跡

月浦開拓の礎を築いた加藤泰秋子爵(1846～1926)は、伊予国(愛媛県)大洲藩の第13代藩主でした。明治24年に月浦、仲洞爺、留寿都など900町歩(約900ヘクタール)を一大農場とし、その経営に力を注ぎました。

さらに、明治31年には加藤子爵邸の一棟を教室として、月浦小学校の前身となる「幌萌教育所」を開設しました。開設にあつ

ては、加藤子爵自らたずさわり、私費で教育資材などをそろえ、月浦地区の教育の場の基礎をつくりました。

つまり、この地はかつて加藤子爵が経営していた農場の一角であり、ここに別邸を建て折々に訪れていた所であった。ここが森林公園として整備されるまでの経緯を要約してみたい。

まず、加藤子爵についてであるが、前記の看板にあるように伊予国(愛媛県)大洲藩第13代(最後)の藩主であり、幕末の明治維新の推進役を務め、明治の新政府の北海道開拓推進政策に賛同し、洞爺湖畔の未開地であった月浦、仲洞爺、留寿都大原の払い下げを受け、アメリカ式大規模農場経営を目指したが、諸般の事情により苦しい経営を余儀なくされた。

子爵の死後は長男加藤泰司(後の北大教授)に引き継がれたが、国の政策に従い月浦の別荘地20町歩を残し、農地解放を行っ



図1 現在のお屋敷跡休憩所



図2 在りし日の月浦別荘 写真:芳賀孝郎氏提供